

部 会 報 告

ISO/TC 195 (建設用機械及び装置専門委員会)
フランス・パリ国際会議報告

標準部会

2016年10月10～14日の5日間、フランス国パリ市で開催されたISO/TC 195 (建設用機械及び装置専門委員会), SC 1 (コンクリート機械及び装置 分科委員会), SC 1/WG 2 (コンクリート表面こて仕上げ機械 作業グループ), WG 5 (道路建設及び維持用機器一用語及び商業仕様 作業グループ), WG 8 (骨材処理用破碎機 作業グループ) 及びWG 9 (自走式道路建設用機械及び装置の安全要求事項 作業グループ) の国際会議に日本代表として出席したので、その内容を報告する。

1. はじめに

ISO/TC 195 国際会議は毎年10月頃開催され、今回はAFNOR (フランス規格協会) の招致により、パリ市にあるFNTP (仏公共職業全国同盟) 分室Club TP 90 及びFrench Ministry of Labour (仏労働・雇用・

職業教育・労使対話省) の会議室において表—1に示す日程で行われた。

今回、日本からは表—2に示す4名の関係者が参加した。

各国からの会議出席者は、中国 (5) (幹事国), ドイツ (11) (ツイニング幹事国), フランス (6), 米国 (5), 韓国 (2), フィンランド (1), 英国 (1), ISO 中央事務局 (1) 及び日本 (4) の各TC 195 関係者であり、8ヶ国 延べ36名であった。

なお、今年も経済産業省施策「平成28年度国際幹事等国際会議派遣事業」による支援を受けての出張となった。

【会議出席の目的】:

ISO/TC 195/SC 1 議長国としてSC 1 会議を運営し、各国提案の進捗を図るとともに、SC 1/WG 4 コンビナー国として日本から提案中の「モバイルミキサ

表—1 ISO/TC 195 各会議日程

日 時	場 所	会 議 名
10月10日(月)～10月11日(火)	FNTP	WG 9 (自走式道路建設用機械及び装置の安全要求事項) 作業グループ会議
10月12日(水) 午前	French Ministry of Labour	WG 8 (骨材処理用破碎機) 作業グループ会議
10月12日(水) 午後		WG 5 (道路建設及び維持用機器一用語及び商業仕様) 作業グループ会議
10月12日(水) 午後		SC 1/WG 2 (コンクリート表面こて仕上げ機械) 作業グループ会議
10月13日(木)		SC 1 (コンクリート機械及び装置; 日本が議長及び幹事国) 本会議
10月14日(金)		ISO/TC 195 本会議

下記の会議も並行して開催された。(日本代表団は上記の会議に出席した為、参加出来ず)

日 時	場 所	会 議 名
10月12日(水)～10月13日(木)	French Ministry of Labour	WG 6 (手持ち式機械及び装置) 作業グループ会議

表—2 日本からの出席者

氏 名	所 属	役 割
大村 高慶	ファーンレスエンジニアリング(株)	ISO/TC 195/SC 1 議長
清水 弘之	KYB (株)	ISO/TC 195/SC 1/WG 4 コンビナー
川上 晃一	日工(株)	ISO/TC 195/SC 1 後任議長
小倉 公彦	JCMA 標準部	ISO/TC 195 事務局, ISO/TC 195/SC 1 国際幹事



写真一 1 FNTP 分室 Club TP 90 外観



写真一 2 French Ministry of Labour 外観

— Part 1：用語及び商業仕様」を推進する。また、SC 1/WG 2 会議に出席する。

専門家の代表として WG 5, WG 8, WG 9 会議に参加し、日本の意見を具申する。

ISO/TC 195 本会議に出席し、SC 1 決議事項の報告を行うと同時に、TC 195 全体の動向及び他 TC との連携に関する情報収集を行い、傘下各作業グループにおけるプロジェクトの進捗状況を把握するとともに、P メンバ国として日本の意見を具申する。

また、2016 年末に任期満了を迎える大村 SC 1 議長の後継者として JISC の推薦を受け、委員会内投票で SC 1 後任議長 (Chair elect) として承認された川上氏を SC 1 会議及び TC 195 本会議で紹介し、参加各国及び ISO 中央事務局への周知及び円滑な移行・議長職継承を図る。

2. 会議概要

1) ISO/TC 195/WG 9 会議 (10 月 10～11 日)

出席者：ドイツ (7), フランス (6), 米国 (5), 日本

(4), 中国 (3), 韓国 (2), 英国 (1) / Convenor : ドイツ Hartdegen 氏, Secretary : 同 Kampmeier 氏 計 28 名

ドイツコンビナー Hartdegen 氏の司会で議事が進行され、次の項目につき議論された。

- 1 使節団の点呼
- 2 ドラフトアジェンダの承認
- 3 WG 9 副コンビナーの任命
- 4 自走式道路建設機械の安全規格 (EN ISO 20500 parts 1-5)
 - 4.1 特設グループの報告
 - 4.1.1 瀝青煙霧 / ガス
 - 4.1.2 自走式道路建設機械の視界性
 - 4.1.3 専用性能レベルの附属書
 - 4.1.4 コンベヤ
 - 4.1.5 遠隔操縦
 - 4.1.6 ガード (5.10.2 項)
 - 4.2 EN ISO 20500-1, -2, -3, -4, -5 の見直し
 - 4.2.1 前回会議での課題 / 宿題事項の検討
 - 4.2.2 残りのコメント及び新たな潜在的コメントに関する討議
- 5 追加の附属書 “汚染保護システム—汚染された区域で使用される自走式道路建設機械の運転室に呼吸用空気を供給するシステム” に関するドイツ提案の議論 (WG 9 Doc N 23)
- 6 合意 / 決定事項のまとめ及び実施すべきこと
- 7 その他の事項
- 8 次回会議の日付及び場所



写真一 3 WG 9 会議風景

2) ISO/TC 195/WG 8 会議 (10 月 12 日午前)

出席者：米国 (5), 中国 (3), 韓国 (2), フランス (1), 日本 (4), 英国 (1) / Convenor, Secretary : 米国 計 16 名

米国コンビナーの司会で議事が進行され、次の項目につき提言が採択された。

- 1 開会：自己紹介の後、署名用紙が回付された。フランス、中国、韓国、日本、英国、米国の代表者及びゲストが出席した。
- 2 ドラフトアジェンダ (WG 8 Doc N 21) が 3.3 項の追加と共に承認された。
- 3 NWIP ISO 21873-2
- 3.1 CEN/TC 151/WG 9における作業の最新状況について

フランスが議論をリードした。骨材処理プラントを扱う下記の規格群が現在開発中。

- ・ Part 1 - 共通の安全要求事項
- ・ Part 2 - 供給機器
- ・ Part 3 - 破碎装置安全
- ・ Part 4 - 選別機
- ・ Part 5 - 追加事項
- ・ Part 6 - 自走式機械の追加事項

Part 1 - 5 の開発に当り、予備作業は 3 年前に開始された。自走式機械の追加的な要求事項を Part 6 として開発する為、新たなサブグループがのちに形成された。2016 年 6 月にベルリンで CEN/TC 151/WG 9 会議があり、Part 1 - 5 を作業プログラムとして始動することに合意した。同年 10 月に投票が締め切れ、2017 年 6 月を期限として活動中。Part 6 は未登録だが、予備段階で登録される見込み。

プロジェクトの予想タイムライン：

2016 年 10 月 (NWIP 締切)

2017 年 12 月 (DIS 期限)

幾つかの Part は 2019 年 1 月に発行される可能性がある

CEN/TC 151/WG 9 で EN 547 の人間工学的要求事項を見直し中であり、アクセス開口部、通路開口部、検査及び保守の為のスクリーンとローラの間の空間 (450 から 550 mm へ変更) を含む。この変更による高さの制限で、3つのスクリーンを有する機械は廃止される可能性がある。次回 CEN/TC 151/WG 9 会議は 2017 年 2 月にローマで開催される。Part 4 が 2 日半、Part 6 が 1 日半の予定。コンビナーの招集により早まる可能性もある。

実施項目：

フランスは Part 1 - 6 の案文を WG 8 メンバの検討用に提供すると共に、これらの発行予定時期も知らせる。

- 3.2 米国による EN 1009-6 案文とサンティアゴ会議後に作成した ISO/WD 21873-2 との対比表

の検討 (WG 8 Doc N 22)

米国が文書を説明した。EN 1009 Part 3 にある用語と ISO 21873-1 及び -2 にある用語は大きく異なっている。当初、この対比表を完成させることに価値を見出していたが、会議の結果及び TC 195 本会議の為に作成した提言を考慮し、対比表の作業は保留とした。

3.3 韓国による 220 ton/hr を超える処理能力を有する自走式破碎機の要求事項の開発に関する提案

韓国で研究中の新技術を紹介するプレゼンテーションを行った。現時点では予備的な作業であるが、将来は規格化の機会がある。

実施項目：

韓国は ppt のコピーを WG 8 セクレタリに提供し、WG 8 メンバに回付する。

4 次段階の決定：下記参照

TC 195/WG 8 提言 1/2016: ISO 21873-2 見直しの次段階

ISO 21873-2 案文に対する変更提案を検討したうえで、TC 195/WG 8 は、2015 年 10 月のサンティアゴ会議で合意された変更内容を反映した案文を、CD 段階を経ずに直接 DIS 段階へ進めることを提言する。本提案を ISO 中央事務局へ送付する前に検討するよう WG 8 メンバに要求する。

案文を WG 8 メンバへ回付する目標期日：2016 年 11 月

DIS 案文を提出する目標期日：2016 年 12 月

5 その他の案件：なし

6 解散



写真一 4 WG 8 会議風景

3) ISO/TC 195/WG 5 会議 (10 月 12 日 13 ~ 15 時)
出席者：ドイツ (4)、中国 (5)、米国 (4)、日本 (4)、フランス (1)、韓国 (1)、ISO 中央事務局 (1) /
Convenor, Secretary：ドイツ 計 20 名
ドイツコンビナーの司会で議事が進行され、次の項

目につき議論された。

- 1 使節団の点呼
- 2 ドラフトアジェンダの承認
- 3 定期的見直し及び潜在的な改正／追補の状況に関する情報及び議論：
 - 3.1 ISO 15643:2002 道路建設及び保守用機器—瀝青結合材撒布／噴霧車—用語及び商業仕様—定期的見直し結果（2015年12月締切）
 - 3.2 ISO 15645:2002 道路建設及び保守用機器—路面切削機械—用語及び商業仕様—定期的見直し結果（2015年12月締切）
 - 3.3 ISO 22242:2005 道路建設及び保守用機器—基本タイプ—識別及び記述
 - 3.3.1 定期的見直し結果（2015年12月締切）
 - 3.3.2 ISO 22242 2.7, 2.8, 2.9 項の権限を TC 297 “廃棄物管理, リサイクル及び道路管理サービス”へ移譲する要求に関する情報（TC 195 による意見照会も参照）
- 4 ISO/TC 127 との協業に関する情報
 - 4.1 ISO 15143-1/-2/-3 土工機械及び自走式道路建設機械—現場データ交換 の準備
 - 4.2 ISO 13766-1/-2 土工機械及び建設用機械—内部電源を有する機械の電磁的両立性— Part 1, Part 2 見直し
- 5 ISO/TC 195/WG 5 の将来作業
- 6 合意及び実施事項のまとめ
- 7 その他の事項
- 8 次回会議の日付及び場所



写真—5 WG 5 会議風景

- 4) ISO/TC 195/SC 1WG 2会議(10月12日 15～17時)
出席者：米国 (4), 日本 (4), フランス (1), ドイツ (1), ISO 中央事務局 (1)／Convenor, Secretary：米国 計 11 名

米国コンビナーの司会で議事が進行され、次の項目につき提言が採択された。

- 1 序言, 謝辞, 専門家の点呼：自己紹介の後, 署名用紙が回付された。
- 2 ドラフトアジェンダの承認 (SC 1/WG 2 Doc N 16)：提示されたアジェンダが承認された。
- 3 ISO 13105-2 の進捗及び課題の議論：振動測定の問題点について, 米国が Doc N 17 を用いて説明した。
- 4 次段階の決定／プロジェクトの実施計画：実施の必要性について合意した。

SC 1/WG 2 提言 -2016：SC 1 会議において, ISO 13105-2 A.5 項における以下の追補を承認する決議を準備するよう提言する：

A.5 振動測定

全身振動及び手腕振動を測定する為の試験方法は, それぞれ ISO 2631-1 及び ISO 5349-1 に従うこと。ただし, 手押し式機械の振動は, 運転員の腹部に吸収される為, これらの規格による方法では効果的に測定されないことを考慮すること。

追補文書を SC 1 セクレタリへ提出する。

- 5 その他の案件：なし
- 6 次回会議の必要性：コンビナーの招集による。
- 7 解散



写真—6 SC 1/WG 2 会議風景

5) ISO/TC 195/SC 1 会議 (10月13日)

出席者：日本 (4), 中国 (4), ドイツ (1), フランス (3), 米国 (5), 韓国 (2), 英国 (1), ISO 中央事務局 (1)／Chairman, Secretary, SC 1/WG 4 Convenor, Chair elect：日本 計 21 名

議長の司会で議事が進行され、次の項目につき決議が採択された。

決議 1：決議委員会として, ドイツ・米国・日本・フ

ランス・中国より5名が任命された。

決議2: 2015年10月19日から2016年10月12日までの間のSC1の活動について、セクレタリによる報告(SC1 Doc N 258)が承認された。

決議3: 委員会内投票結果によるSC1/WG2, WG3, WG4コンビナー任期更新の確認について、セクレタリによる報告(SC1 Doc N 259)が承認された。

決議4: DIS 19720-1 コンクリート及びモルタル準備用プラント: 第1部—用語及び商業仕様—中国提案 DIS投票結果の報告及び討議

中国(WG5コンビナー)の報告(SC1 Doc N 260)が承認され、日本のコメントに関する議論の後、解決した。コンビナーは次の事項を要請された。

- FDIS投票用ドラフトを準備する
- 作成したFDIS案文をSC1セクレタリに提出する
また、セクレタリは次の事項を要請された。
- FDIS投票が直ちに行われるよう、ISO中央事務局へFDIS案文を提出する(技術的コメントが含まれる場合、委員会内投票で処理する必要があり、FDISをスキップすることは不可)

決議5: PWi 19720-2 コンクリート及びモルタル準備用プラント: 第2部—安全要求事項に関する将来プロジェクト

将来、ウィーン協定の下で安全要求事項に関する第2部を作成する意向のあることを確認し、コンビナーは次の事項を要請された。

- ・CEN作業グループでの進展がないことから、欧州の作業文書に基づくISO予備作業項目の要求を準備する
- ・次回2017年のSC1会議で更なる議論があるまで、新規作業項目は開始しない

なお、リエゾンオフィサー(連携代表者)として任命された米国及び中国は、CEN/TC 151/WG 8との接触が可能である。

決議6: DIS 19711-1 モバイルミキサ: 第1部—用語及び商業仕様—日本提案 DIS投票結果の報告及び討議

コンビナー/セクレタリによる、WebEx会議の開催状況、DISドラフト(SC1 Doc N 267)作成の経緯及びDIS投票結果報告(SC1 Doc N 265)に対し、コンビナーは次の事項を要請された。

- DIS投票におけるコメントを回付し、FDISプロセスを開始する前に技術的コメントに対処する為、2017年1月にSC1/WG4会議(WebExによる)を設定する
- なお、附属書Aに“ブリッジアックスル”を含める為、

米国に図面の提供を依頼する。

[米国提案のコンベヤ付ミキサ、他ポンプ付・ブーム付ミキサなどは適用範囲から除外する]

決議7: PWi 19711-2 モバイルミキサ: 第2部—安全要求事項に関する将来プロジェクト

将来、ウィーン協定の下で安全要求事項に関する第2部を作成する意向のあることを確認した。

・prEN 12609が発行されるまで、新規作業項目は開始しない

なお、リエゾンオフィサー(連携代表者)として任命されたセクレタリは、CEN/TC 151/WG 8との接触が可能である。

決議8: ISO 17740 定置式コンクリート打設システムに関する報告—韓国提案

セクレタリによる韓国(WG3コンビナー)の報告(SC1 Doc N 269)が承認された。

- コンビナーの活動に謝意を表すが、安全要求事項の専門家がいないことから、(ISO/IEC業務指針に従い)作業完了に伴うWG3の解散を決定する。コンビナーは、新たな専門家による新規作業項目の機会があれば、いつでもWGを再結成できる

決議9: ISO 13105-2 コンクリート表面こて仕上げ機械—第2部: 安全要求事項及び検証—米国提案 見直しに関する進捗の報告

手押し式コンクリート表面こて仕上げ機械における手腕振動計測方法の明確化についての米国(WG2コンビナー)によるプレゼンテーションが承認された。

- タスクフォースの調査に感謝する
- ISO 13105-2 A.5項を修正する追補の登録を決定するとともに、調査結果を含めた以下(下線部)の追補を準備するようWG2に要請する

A.5 振動測定

全身振動及び手腕振動を測定する為の試験方法は、それぞれISO 2631-1及びISO 5349-1に従うこと。ただし、手押し式機械の振動は、運転員の腹部に吸収される為、これらの規格による方法では効果的に測定されないことを考慮すること。

- 追補案文をSC1セクレタリに提出するよう要請する。ISO中央事務局へ提出された案文は、直接DAM投票に付される

決議10: 定期的見直し 最近締め切られた投票結果及び投票中の定期的見直し(SR)に関する報告及び議論

セクレタリの報告(SC1 Doc N 270)が承認された。

決議11: 定期的見直し結果 ISO 18651-1 内部振動機—第1部: 用語及び商業仕様

- コメント及び回答 (SC 1 Doc N 271) を受諾する
- 当面は、確認されたものとして処理する
- 日本が新業務項目提案の準備を申し出ている

決議 12: 後任議長の紹介— JISC より任命された日本の次期 SC 1 議長候補

- 過去 20 年に亘る、現職議長の業績に謝意を表明する
- TC 195 委員会内投票結果の報告を含む、セクレタリのプレゼンテーション (SC 1 Doc N 272) に感謝する
- 日本の後任 SC 1 議長を歓迎する

決議 13: 次回会議の開催

次回 SC 1 会議は、米国で 2017 年に開催される ISO/TC 195 総会に合わせて計画する。

決議 14: 謝辞

パリでの SC 1 会議開催を準備し運営したホスト、特に仏労働・雇用・職業教育・労使対話省に謝意を表明する。

決議 6 において、日本提案のモバイルミキサ Part 1—用語及び商業仕様について、WebEx 会議を開催して更に議論したうえで第 2 次 DIS 投票へ進むよう要請された。また、**決議 5**、**決議 7**、**決議 8** において、今後ウィーン協定の下で提案を予定している 3 件の Part 2—安全要求 (モバイルミキサ、コンクリート及びモルタル準備用プラント、コンクリート打設システム) とも、欧州で作業中の対応 EN 見直しが長引いている為に、未だプロジェクト開始の目途が立っておらず、ISO/TC 195/SC 1 側の連携代表者を CEN/TC 151/WG 8 会議へ派遣するなど、欧州への何らかの働きかけが必要とも思われる。なお、**決議 3** において 3 名のコンビナーの任期更新が承認されたが、コンクリート打設システム—安全要求については専門家がない為、ISO/IEC 業務指針に従い、韓国コンビナーの所管する SC 1/WG 3 を一旦解散するよう決議された。

6) ISO/TC 195 本会議 (10 月 14 日)

出席者: ドイツ (11), 中国 (5), 米国 (5), 日本 (4), フランス (3), 韓国 (1), 英国 (1), フィンランド (1), ISO 中央事務局 (1) / Chairman: ドイツ/中国, Secretary: 中国/ドイツ (ツイニング) 計 32 名

ドイツ議長の司会で議事が進行され、次の項目につき決議が採択された。

決議 1: ISO/TC 195 は、今週の TC 195, SC, WG



写真一七 SC 1 会議風景

会議運営に当たったフランス使節団、特に仏労働省、CISMA 及び FNTP 及び関係各位に謝意を表明する。ソーシャルイベントを企画した CISMA, BG Bau 及び VDMA にも感謝する。

決議 2: 決議委員会として、フランス・英国・米国・中国・日本・ドイツより 6 名が任命された。

決議 3: ISO/TC 195 の活動に関する中国セクレタリの口頭報告に感謝する。

決議 4: 過去 5 年に亘って議長を務めたドイツに謝意を表明する。新たに議長となる中国を歓迎し、2017 年 1 月より始まる中国議長の任期を支持する。

決議 5: (トンネル機械、穿孔及び基礎工用機械、道路管理サービス機械 (決議 18 も参照) など、新しい SC 及び業務項目の創設に関する) ISO/TMB タスクフォース 9 が作業を完了し、報告を基に決定された活動を適用するまで、その活動継続を承認する。

決議 6: 以下に示す各コンビナーを再び任命し、引き続き TC 195 業務への支援を求める。

米国— WG 2

ドイツ— WG 5



写真一八 TC 195 議長の表彰を受け、喝采に応える SC 1 議長

米国－WG 8

ドイツ－WG 9

決議 7：ISO 中央事務局からのニュース及び ISO/IEC 業務指針の変更に関する ISO 中央事務局のプレゼンテーションに感謝する。

決議 8：SC 1 報告及び後任 SC 1 議長の紹介—SC 1 議長の報告に感謝する。永年にわたり SC 1 を統率した日本の功績に謝意を表するとともに、今後の活躍を祈念する。また、日本の後任 SC 1 議長を歓迎する。

決議 9：WG 5 報告—WG 5 コンビナーの報告に感謝する。

決議 10：WG 5 新業務項目提案—ISO 15643 定期的見直し

ISO 15643:2002 道路建設及び保守用機器—瀝青結合材撒布／噴霧車—用語及び商業仕様の見直しを行う新業務項目提案の開始に同意する。プロジェクトリーダーはドイツとなる。

決議 11：WG 5 軽微な改正—ISO 15645

ISO 15645:2002 道路建設及び保守用機器—路面切削機械—用語及び商業仕様の軽微な改正を行う新業務項目提案の開始に同意する。プロジェクトリーダーはドイツで、24 ヶ月トラックのプロジェクトとなる。

決議 12：WG 6 報告—WG 6 代表者の報告に感謝する。WG 6 の新たなコンビナーとして、ドイツを承認する。

決議 13：WG 6 ISO 19432 の見直し

EN ISO 19432 の見直しにおいて CD 投票をスキップすることに同意する。摩耗チェーン式機械に関する新業務項目の可能性はある。

決議 14：WG 8 報告—WG 8 コンビナーの報告に感謝する。

決議 15：WG 8 ISO 21873-2 の見直し

ISO 21873-2 の見直しプロセスにおいて CD 投票をスキップすることに同意するとともに、DIS 案文を提供するよう WG 8 コンビナーに要求する。

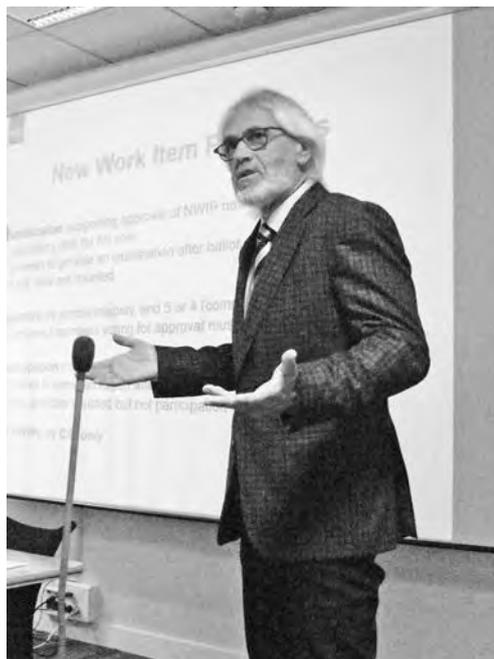
決議 16：WG 9 報告—WG 9 コンビナーの報告に感謝する。

決議 17：一部業務範囲の ISO/TC 297 への移管

委員会内投票の結果について、コメントが提出され、議論が紛糾した。ISO 中央事務局の代表者によるバックグラウンド情報に感謝し、ISO/TMB 及びタスクフォース 9 の更なる情報及び決定を待つ。意見がある場合、自国の TMB 代表機関及びタスクフォース 9 へ提出するよう奨励する。

決議 18：全断面トンネル機械—将来業務

全断面トンネル機械—スラリ（圧力均衡式）シールド機械に関する中国のプレゼンテーションに感謝す



写真一 9 ISO 中央事務局による説明



写真一 10 路面清掃車（TC 195/WG 5 所管，TC 297 が移管を要求）



写真一 11 塵芥収集車（TC 297 所管）

る。新業務項目としてCIB（委員会内投票）を用意するよう奨励する。TMBタスクフォース9の決定を待って、TC 195内で投票に付する。

決議 19：ISO/TC 127 との連携

ISO/TC 127 のリエゾンオフィサーによる報告に感謝する。

決議 20：ISO/TC 127/SC 2 との連携作業グループ

ISO/TC 127/SC 2/WG 28 が率いる ISO 21815 衝突回避を扱う ISO/TC 82 との連携作業グループに、ISO/TC 195 も参加する。

決議 21：ISO 15878 見直しの新業務項目提案

2015年10月のサンティアゴ会議における決議10に従い、ISO 15878 “道路建設及び維持用機器—アスファルトペーパー用語及び商業仕様”を見直す新業務項目提案の委員会内投票を開始するよう TC 195 セクレタリに要求する。

決議 22：次回会議

次回 ISO/TC 195 本会議を2017年11月6～10日に米国で開催（正確な開催地は追って確認、テキサス州サンアントニオを提案）との米国使節団の招致に感謝する。

（ナッシュビル、フェニックス、ニューオーリンズなど、他に複数の候補地が挙げられた）



写真—12 ISO/TC 195 本会議風景

TC 195 ツイニング議長国である中国からは、既に中聯重科（Zoomlion）が SC 1/WG 5 コンビナーとして積極的に参加しているが、決議18において、新たに「全断面シールド機械の国際標準化」に関する提案が報告された。シールド工法において先行技術を有する日本としては、国際標準化で苦杯を嘗めることのないよう、今後、中国の動向を注視する必要があると思われる。

また、決議17において、TC 297 への一部業務範囲移管について、TC 195 本会議に先立ち TC



写真—13 ISO/TC 195 本会議出席者

195 委員会内投票が9月に締め切られ、特にフランスが強く反対、米国・中国・日本も反対票を投じた。しかしながら、会議に不参加のPメンバ国（6ヶ国、すべて賛成）を含めると賛成多数の投票結果となり、意思決定の方法自体も論議の対象となった。今後、TC間の業務範囲重複を調整するISO/TMBタスクフォース9の更なる活動とその結論を待つ事となったが、TC 297議長がTC 195本会議に出席していたにも拘わらず発言の機会が与えられないなど、時間の制約により十分な意見交換ができず、議長国ドイツの狙いも不明のまま閉会となった。予てよりドイツ・中国が定めたTC 195議長国・幹事国ツイニング（共管）スケジュール通り2016年から幹事は中国に交代しており、議長も2017年から中国へ交代となった（～2019年までの3年間、ドイツは補佐に回る）。

なお、決議12において、今回より初めてTC 195本会議に参加したWG6の報告が紹介された。

※1 ISO 関連用語の解説

ツイニング：2ヶ国による（幹事国）協同運営、コンビナー：（作業グループ）主査、プロジェクトリーダー：提案の推進責任者、セクレタリ：国際幹事

※2 ISO 規格用語の解説

TC：専門委員会、SC：分科委員会、WG：作業グループ、PW：予備作業項目、NP：新業務、WD：作業ドラフト、CD：委員会ドラフト、DIS：国際規格ドラフト、FDIS：最終国際規格ドラフト、CIB：委員会内投票

※3 組織略語の解説

CEN：欧州標準化委員会、CISMA：フランス建設・インフラ・鉄鋼産業及びハンドリング用機器組合、Ministère du travail：フランス労働・雇用・職業教育・労使対話省、FNTF：Fédération Nationale des Travaux Publics フランス公共職業全国同盟、INRS：フランス国立安全研究所、VDMA：ドイツ機械工業連盟、BG Bau：ドイツ土木建設職業保険組合、NIOSH：米国国立労働安全衛生研究所

7) 所感

この国際会議は今回で25回目になる。懸案事項であったSC 1議長の後継者について、日本より立候補したChair electが事前のTC 195委員会内投票において全員一致で承認されており、後任SC 1議長の川上氏がパリ国際会議で温かい歓迎を受けた。ISO/IEC業務指針に従い、大村氏の任期満了を以て2017年1

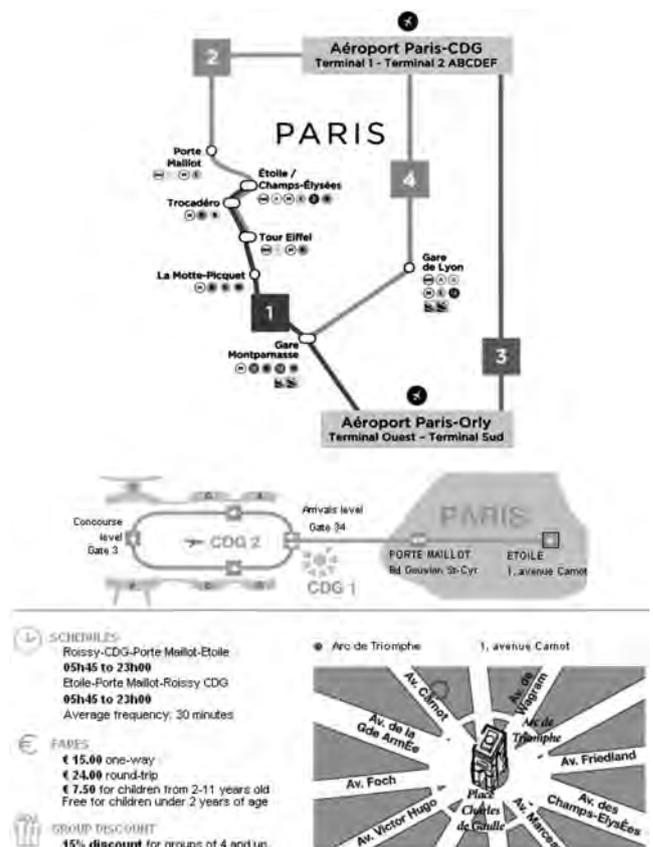
月より川上氏が自動的にSC 1議長へと就任した。

SC 1/WG 4は、コンビナー清水氏が日本提案（モバイルミキサ）を推進しているが、ほぼ同時にプロジェクト開始したSC 1/WG 5の中国提案（コンクリート及びモルタル準備用プラント）がひと足先にFDIS段階へと進んでおり、今後もWebEx会議を活用して早期に第2次DIS投票実施を図る。また、各国意見の調整を図ると共に、新議長の下、SC 1の活動を促進し、TC 195及び他WGへも積極的に意見具申していくことで、建設用機械及び装置産業における日本の国際競争力維持・発展に貢献する。

なお、近年、TC 82、TC 297など周辺TCの適用範囲との摩擦が生じており、引き続き情報収集に当り、日本意見の調整・発信に努める。

8) その他

今回初めてISO/TC 195国際会議の開催地となったパリは、言うまでもなく世界屈指の観光都市であり、シャルル・ド・ゴール空港から市内へは複数の移動手段が選択できる。今回はLe Bus Direct（旧エールフランスバス）2号線を利用し、第2ターミナルからÉtoile/Champs-Élysées凱旋門広場まで1時間半～2時間弱で到着した（図—1参照）。



図—1 Le Bus Direct 路線図／凱旋門広場（バス停車位置）地図

近年の TC 195 国際会議は、開催国の市街地にある大きなホテルの会議室で開催され、同じホテルに宿泊することが多かったが、ここパリでは（リーズナブルな価格で）会議場付きホテルを確保するのは難しく、また、CISMA が手配した公的機関の会議室は、会期前半と後半で少々離れた別の場所となった（図-2～5 参照）。従って、出席国は各自の判断で（交通の便が好いと思われる立地の）宿を推奨ホテルリストから選択し、其処から自力で FNTP 分室 Club TP 90 及び French Ministry of Labour へ辿り着くことが要求された。

日本の使節団が宿泊した Warwick Paris (旧 Warwick Champs-Elysees) は、シャンゼリゼ通りに面した FNTP 分室 Club TP 90 から目と鼻の先にあり、また、French Ministry of Labour へも地下鉄で 30 分程の距離と、交通至便の立地条件にある。

シャンゼリゼ通りの George V 駅からメトロ 1 号線、又は西隣りの Charles de Gaulle - Étoile 駅から同 6 号線、或いは東隣りの Franklin D. Roosevelt 駅から同 9 号線



図-2 地下鉄路線図 (FNTP 所在地周辺)

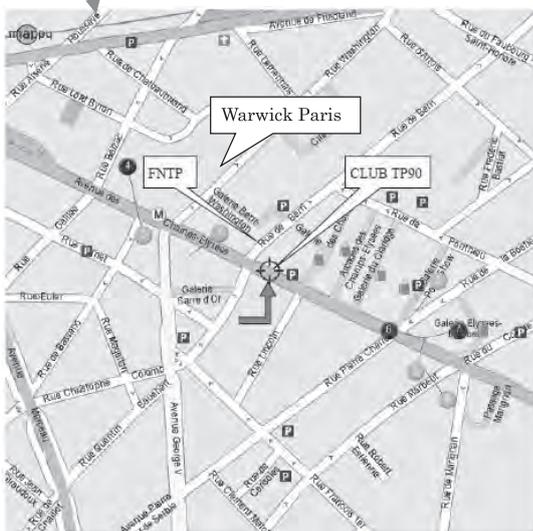


図-3 CLUB TP 90 所在地 (10/10～11 会議場所)



図-4 地下鉄路線図 (French Ministry of Labour 所在地周辺)

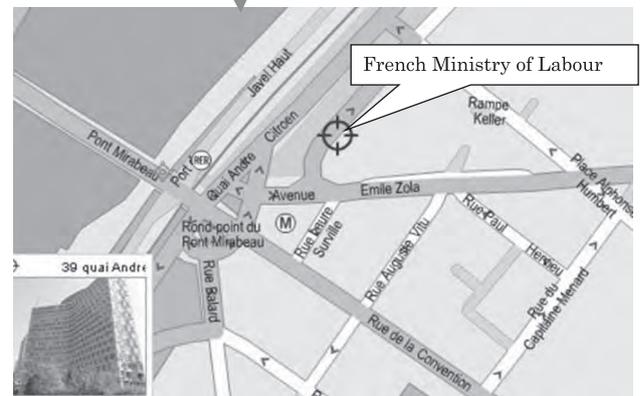


図-5 French Ministry of Labour 所在地 (10/12～14 会議場所)



写真-14 TP 90 最上階会議室より見下ろしたシャンゼリゼ通り

に乗れば、1～2回の乗り換えで、同10号線のJavel André Citroën 駅に到着、其処から French Ministry of Labour までは徒歩5分ほどである。

日本からパリへのアクセスは、エールフランス直行便を利用した。昨年のチリ・サンティアゴに比べれば格段に近い開催地ではあったが、2015年11月にパリで発生した同時多発テロの後、2016年7月にニース



写真一五 TP90 最上階会議室から見えるエッフェル塔



写真一八 フランス・ドイツ主催者挨拶 (写真提供：川上氏)



写真一九 船内での会食風景 (写真提供：川上氏)



写真一六 シャンゼリゼ通りと凱旋門

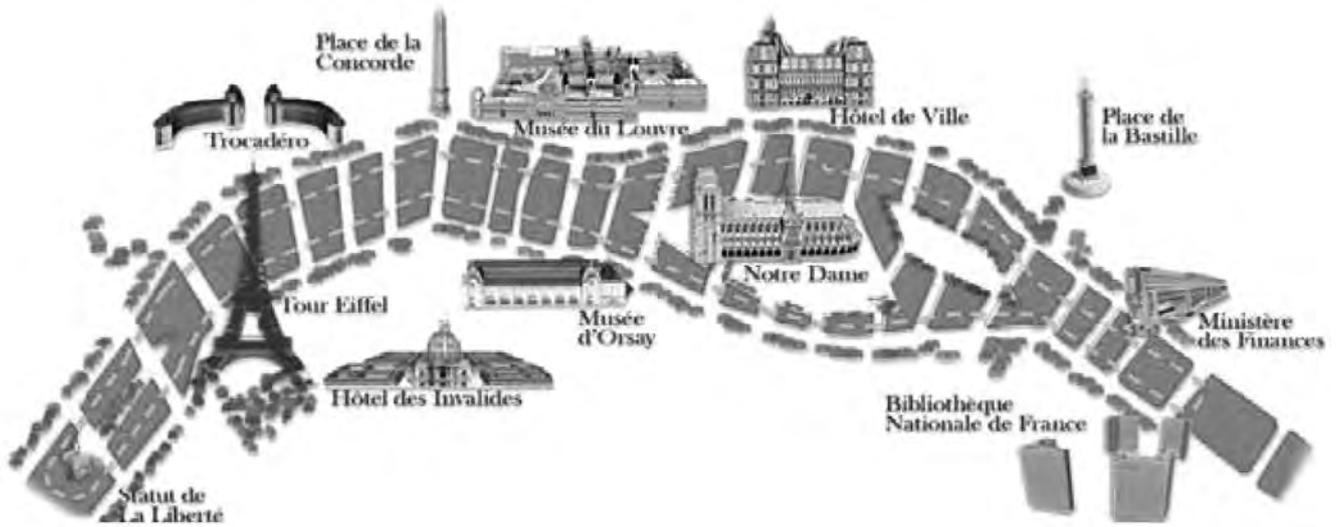


写真一七 メトロ10号線

で再び発生したテロの影響でフランス非常事態宣言が延長された中での国際会議開催となった。シャルルド・ゴール空港到着後、安全確認の為（特に検査を受けた訳でもないが）ゲート通過まで必要以上に待たされたり、シャンゼリゼ通りに面した複合商業ビルの入口で警察官が手荷物検査を実施していたりと、相応の不便さはあったものの、厳戒態勢というほどではなかった。渡航前に心配された移動の制限等はなく、市民や旅行者も治安維持に対し協力的であった。

10月13日夕刻からソーシャルイベントが開催され、メンバ国出席者たちは French Ministry of Labour (Ministère du travail) 近くの Beaugrenelle harbour を出港して夜のセーナ川を航行する“Le Theo”号に乗り、船上晩餐会で親交を深めた(図一6参照)。

(協会標準部会事務局記)



図一六 セーヌ川ディナークルーズ 航路案内図



写真一 20 甲板上で夜景を楽しむ参加者たち